

## 放送利用の大学公開講座シンポジウムの実施の概要 (第1回～第6回)

### 第1回放送利用の大学公開講座シンポジウム

「大学による放送教育とそのフィードバック」

1. 期日 昭和59年2月23日(木)、24日(金)
2. 会場 広島県立社会教育センター
3. 主管機関 広島大学、中国放送

#### 第1セッション「昭和58年度放送利用の大学公開講座実施報告」

〔① 大学の取組み方及び課題と成果、② 番組の企画及び制作・放送並びに学習等について各大学及び各放送局より報告。〕

＜司 会＞ 放送教育センター制作部長 中 原 健二郎

#### 第2セッション「ケーススタディー——『心を育てる』(広島大学58年度放送公開講座番組)——」

〔広島大学の昭和58年度の放送公開講座番組『心を育てる』について、公開討論会の録画を含め、約1時間にまとめたものを視聴した。その上で、本番組のねらいとフィードバックについて、企画立案者、制作者及び学習者それぞれの立場を踏まえての討議を求め、「大学と放送公開講座の役割」についてのケーススタディーを行った。〕

＜司 会＞ 広島大学教授 瀬 川 道 治

＜報 告 者＞ 広島大学教授 黒 田 耕 誠

広島大学教授 河 野 眞

中国放送テレビ局次長 豊 島 彰

＜パネリスト＞ 広島大学教授 岸 本 幸次郎

放送大学教授 深 谷 昌 志

民間放送教育協会総合プロデューサー 萩 原 勝

#### 第3セッション「大学と放送公開講座の役割」

〔① 放送公開講座の大学における位置づけ、② 大学公開講座を放送によって行う意義、③ 大学公開講座の送り手及び受手のあり方と活用を中心に、前セッションのケーススタディーをもとに大学内での企画及び実施体制、番組制作の体制、放送公開講座の送り手及び受け手の直面する課題と、大学内外における活用の状況について、北海道大学及び大阪大学からの基調発表をもとに討議し、さらに共同制作及び共同利用の可能性についても討議する。〕

＜司 会＞ 放送教育開発センター所長 天 城 勳

＜司 会 者＞ 北海道大学教授 石 川 純

大阪大学教授 江 口 順 一

### 第2回放送利用の大学公開講座シンポジウム

「自然科学系科目と放送公開講座——そのあい路と可能性——」

1. 期 日 昭和60年2月28日(木)、3月1日(金)
2. 会 場 仙台市宮城第一ホテル
3. 主管機関 東北大学、東北放送

#### 第1セッション 「昭和59年度放送利用の大学公開講座実施報告」

〔① 放送公開講座の大学における位置づけ、② 放送における大学公開講座の意義と位置づけ、③ 実施上の問題点と今後の課題等について各大学および放送局より報告。〕

＜司 会＞ 放送教育開発センター制作部長 中 原 健二郎  
民間放送教育協会プロデューサー 井 出 定 利

#### 第2セッション 「自然科学科目と放送公開講座 —そのあい路と可能性—」

〔放送講座において、自然科学系科目は、文科系科目と較べて、概して一般受けしにくく、また受講生の動員力や視聴の継続、理解度の面においても問題を抱えている。このセッションでは、東北大学が実施してきた講座の中から3つの自然系テレビ講座と放送大学の自然系授業科目を選定し、上述したような問題について、番組のダイジェスト版を試聴しながら討議を深め、またそれらの難点、ネックを克服するための番組制作上の方法、工夫などにも言及していく。〕

＜司 会＞ 東北大学教育学部長 田 原 音 和  
＜パネリスト＞ 東北大学理学部教授 小 西 和 彦  
東北大学理学部教授 土 倉 保  
東北大学理学部教授 武 内 峯  
東北大学教育学部教授 細 谷 純  
東北放送報道局次長 渡 辺 生 児  
放送大学教授 奈 須 紀 幸  
放送大学ディレクター 玉 木 孚

#### 第3セッション 「放送公開講座番組等の授業への活用について」

〔放送による公開講座は大学人及び放送局の多くの英知と努力と、また多額の経費を費やして作成されたものであり、放送のみに限定せず、これをビデオ教材化し、印刷教材と組み合わせ、大学における授業への活用の方策について探るとともに、合わせて他大学の放送公開講座等のビデオ・オーディオの放送番組を備え、研究者・学生に対するライブラリーとしての活用を探る。〕

＜司 会 者＞ 放送教育開発センター教授 阿 部 美 哉  
＜パネリスト＞ 北海道大学歯学部教授 石 川 純  
大阪大学言語文化部教授 藤 田 実  
金沢大学教養部教授 高 山 俊 昭  
広島大学総合科学部教授 瀬 川 道 治

#### 第3回放送利用の大学公開講座シンポジウム

「放送公開講座と視聴覚表現」

1. 期 日 昭和61年2月27日(木)、28日(金)

## 2. 会 場 千葉市「放送教育開発センター・制作棟ホール」

### 第1セッション「よりよい放送公開講座のための番組制作について」

各大学及び放送局から、昭和60年度放送公開講座について、講座のねらいと実施状況、番組の構成と制作過程、今後の課題等について報告を行う。

特に、テレビ番組については、制作に当たって工夫した場面、特色のある場面等を、6～7分程度に編集したビデオテープを試聴して報告を行う。

各大学及び放送局の報告を踏まえ、放送公開講座の「大学教育の地域社会への開放」及び「大学の授業への活用」という二つの観点から、放送公開講座の番組制作上の諸問題について、討議を行い、よりよい放送公開講座のための番組制作上の在り方を探る。

＜司 会＞ 放送教育開発センター研究開発部長 阿 部 美 哉  
民間放送教育協会プロデューサー 井 出 定 利

### 第2セッション「学術研究と映像教育の関連づけについて」—「飛ぶ鳥のメカニズム」を試聴して—

第15回日本賞（教育番組国際コンクール）を受賞した、イギリス公開大学のテレビ番組「飛ぶ鳥のメカニズム」を試聴して、この番組のねらい、制作技術、手法等について、各パネリストから報告を受け、会場の出席者の参加も得て、討議を行い、学術研究のプロセスの番組への反映による学術研究と映像教育の関連づけについての可能性を考察する。

＜司 会＞ 放送大学長 香 月 秀 雄

＜パネリスト＞ 放送教育開発センター客員教授、東京工業大学工学部教授

	坂 元 昂
東京大学工学部附属境界領域研究施設教授	東 昭
中国放送テレビ局制作部副部長	松 永 英 美
放送教育開発センター制作部次長	杉 依 孝

## 第4回放送利用の大学公開講座シンポジウム

### 「地域課題と放送公開講座」

1. 期 日 昭和62年2月24日(火)、25日(水)

2. 会 場 金沢市「金沢市文化ホール」

3. 主管機関 金沢大学、北陸放送

### 第1セッション「放送公開講座の番組の制作と活用について」

各大学及び放送局から、昭和61年度の放送公開講座について講座のねらいと実施状況、番組の構成と制作過程、大学の授業等への活用及び今後の課題等について報告を行う。

特に、テレビ番組については、制作に当たって工夫した場面、特色のある場面等を、6～7分程度に編集したビデオを使って報告を行う。

これらの報告を踏まえ、会場の出席者の参加も得て、よりよい放送公開講座の番組の制作及び活用のあり方を討議する。

＜司 会＞ 放送教育開発センター制作部次長 杉 依 孝  
民間放送教育協会プロデューサー 井 出 定 利

## 第2セッション「地域課題と放送公開講座 ―その意義と問題点―」

「大学教育の地域社会への開放」をひとつの重要な課題とする放送公開講座にあっては、地域の課題をどのように捉え、それを公開講座にどのように盛り込むかについて関係各大学が真剣に地域に取り組んできたところである。

そこで、今年度、この観点から番組を制作した大学から報告を受け、第1セッションの討議を踏まえ、会場の出席者の参加も得て、地域課題に即した放送公開講座のあり方を探る。

＜司 会＞	金沢大学教育開放センター教授	佐 伯 信 男
＜パネリスト＞	宮城教育大学教育学部教授	我孫子 麟
	広島大学経済学部教授	櫛 本 功
	熊本大学法学部教授	江 藤 孝
	琉球大学法文学部教授	屋比久 浩
	金沢商工会議所副会頭	渋谷 亮 治
	北陸放送株式会社常務取締役	柏 野 陽 一

## 第5回放送利用の大学公開講座シンポジウム

「生涯教育と大学教育の接点を求めて」

- 1 期 日 昭和63年2月18日(木)、19日(金)
- 2 会 場 熊本市「ニュースカイホテル」
- 3 主管機関 熊本大学、株式会社熊本放送

### 第1セッション「放送公開講座の番組の制作と活用について」

各大学及び放送局から、昭和63年度の放送公開講座について、講座のねらい、番組の構成と制作過程、実施状況、大学の授業等への活用及び今後の課題等について報告を行う。

特に、テレビ番組については、制作に当たって工夫した場面、特色のある場面等を、6～7分程度に編集したビデオを使って報告を行う。

＜司 会＞ 高 杉 恒 夫(放送教育開発センター制作部長)  
井 出 定 利(財団法人民間放送教育協会プロデューサー)

### 第2セッション「放送公開講座コンクールの受賞作品の発表・表彰及び視聴について」

昭和63年度「放送公開講座コンクール」の優秀作品・講座の発表・表彰を行う。併せて、最優秀に選ばれたテレビ・ラジオの各講座の作品1本ずつを視聴する。

＜司 会＞ 阿 部 美 哉(放送教育開発センター研究開発部長)  
＜審査報告＞ 麻 生 誠(大阪大学教授)  
坂 元 昂(東京工業大学教授)  
中 野 照 海(国際基督教大学教授)

## 第6回放送利用の大学公開講座シンポジウム

「放送利用の大学公開講座の発展のために」

1. 期 日 平成元年2月20日(木)、21日(金)

2. 会 場 千葉市「放送教育開発センター・制作棟ホール」

3. 主 催 放送教育開発センター、財団法人民間放送教育協会

#### 第1セッション「放送公開講座の番組の制作と活用について」

各大学及び放送局から、昭和62年度の放送公開講座について、講座のねらい、番組の構成と制作過程、実施状況、大学の授業等への活用及び今後の課題等について報告を行う。特に、テレビ番組については、制作に当たって工夫した場面、特色のある場面等を、6～7分程度に編集したビデオを使って報告を行う。

また、併せて、第16回日本賞（教育番組国際コンクール）を受賞したカリフォルニア工科大学／南カリフォルニア・コンソーシアムのテレビ番組「ローレンツ変換の話」の視聴を行う。

これらの、報告・視聴を踏まえ、会場の出席者の参加も得て、よりよい放送公開講座の番組の制作及び活用のあり方を討議する。

<司 会> 杉 依 孝（放送教育開発センター制作部長）

井 出 定 利（財団法人民間放送教育協会プロデューサー）

#### 第2セッション「生涯学習と大学教育の接点を求めて」

これまで、放送公開講座の実施を通じて、放送メディアの特性を最大限に生かしながら、いかにして大学教育の開放を促進し、生涯学習の要請に応えることができるかを模索してきた。また、同時に大学における教育方法の改善の一環として、放送公開講座の大学教育への活用についても検討を試みてきた。これはまさしく「生涯教育と大学教育との接点を求めて」の歩みであったといえる。

そこで、大学教育の開放の視点から生涯学習への接点を求めた〔実験番組〕とを手掛かりとして、第1セッションの討議と3種類のモニターへのアンケート調査結果等を踏まえ、会場の出席者の参加も得て、生涯教育への活用と大学教育への活用という二つの課題に適應した放送公開講座のあり方を探る。

《司 会》 江 藤 孝（熊本大学学生部長）

《パネリスト》 今 江 正 知（熊本大学教養部教授）

大 塚 雄 作（放送教育開発センター助教授）

緒 方 良 雄（熊本県菊池市立菊之池小学校長）

光 永 一 三（株式会社熊本放送テレビ局制作部長）